

3～400億円の税金投入を止め、ゼロ・ウェイスト(ゴミゼロ)宣言都市静岡を

2003年12月16日 「ゴミゼロ静岡」市民ネットワーク 壺阪道也

静岡市ごみ処理能力

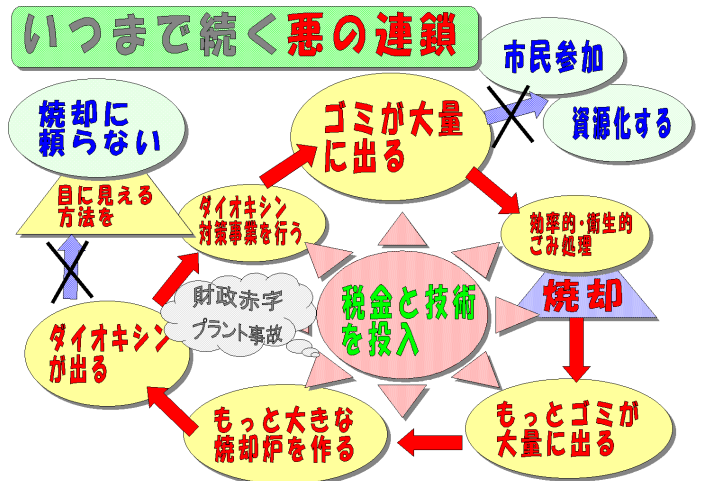
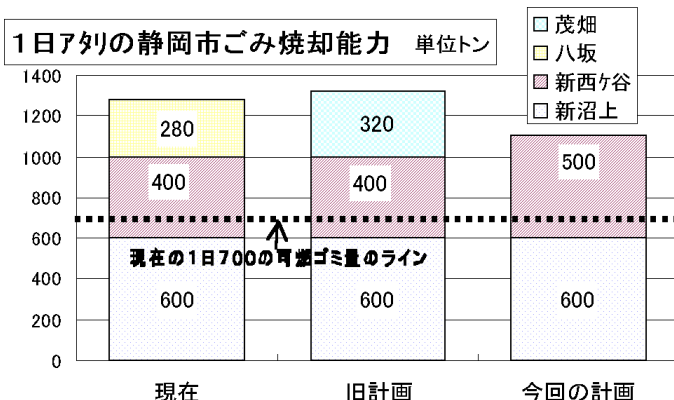
	旧静岡市	旧清水市
焼却ごみ量	500 t / 日	200t / 日
現在	西ヶ谷 200t × 2 新沼上 200t × 3 計 1000t / 日	105t × 2 (24H) 70t × 1 (24H) 計 280t / 日
当初計画	同 1000t / 日	茂畑 320t / 日
03年9月発表	西ヶ谷 500t 新沼上 600t 計 1100 t / 日	なし

静岡市のごみ処理施設建替え計画とは

10年に一度の建替えを続けきた静岡市。静岡合併によって、清水茂畑地区でのごみ焼却場建設計画を撤回して、**320億円の西ヶ谷清掃工場の建替えを早める計画を03年9月に静岡市議会に発表した。**これは09年完成を目指して、現在の処理能力400tを500tにするもの。現在八坂280t、沼上600t、西ヶ谷400t合計1280tの1日あたりごみ焼却処理能力がある。「合併前までの、茂畑は320tの計画で合計1320tになるところを、この計画によって、**合計処理能力を1100tにするのだから、ごみ減量をも見込んでいる。**」というのが、静岡市当局の言い分らしい。

700t/日のごみ量に何故処理能力1100t/日が必要なのか？

そもそも旧静岡市は可燃ゴミ焼却量の2倍の処理余力を持っていたことが異常事態である。現在700t/日の焼却ごみがある。仮りごみ量が横ばいを続けた場合でも、点検時に炉を休止するとして1炉最大200tであるので、900t/日の処理能力を確保すれば十分である。



仮に清水八坂の閉鎖と西ヶ谷の建替え無しでも、1000t/日の処理能力が確保される。

ごみがまだ増え続ける要素があると推定し、「ごみ処理をスムーズに進めるためには余裕があった方がよい」という前提では税金投入とごみ増加の繰り返しになってしまう。ごみがあるから、税金を投入して、ごみ処理をする。ごみを燃やすからダイオキシンが出る。そのために高額なバグフィルターを付ける(西ヶ谷30億円、清水八坂15億円)それでもだめなら、もっと大きな焼却炉を建設する。その繰り返しでよいのだろうか？

ごみ減量プランで、建替え増設は回避できる！

清水八坂の炉の閉鎖によっての15億円(00年建設分、すでに93年建設の電気集塵機15億円がムダになっている)と西ヶ谷清掃工場のバグフィルター建設費30億円(01年建設)の役割を終え、廃棄される(全部がムダになる)ことになる。もちろん新西ヶ谷清掃工場建設費は320億円以上の巨費が必要になる。合計3～400億円の税金投入が必要なのか、ごみ減量によってそれを避けることができるのかを市民に問うべきである。少なくとも、ほんの少しのゴミ減量努力で、そのお金は不必要になる。

清水八坂の存続の必要性と可能性

清水八坂は周辺住民との協定で、使用期限が07年に切れようとしている。周辺住民としては、ごみ処理が滞った時期もあり、工場閉鎖を望んでいると聞いている。しかし、適切なごみ処理=脱焼却・脱埋立の観点から考えると3点の考慮すべきことがあるだろう。第一に「市民により目に見えるごみ処理」

清掃工場の稼働年数・建設費・排ガス対策費

	稼働年数	建設費	排ガス対策設備
新西ヶ谷清掃工場	21年(82～現在)	65.3億円	28.5億円(01年)
新沼上清掃工場	11年(92～現在)	273.7億円	
八坂1,2号炉	28年(75～現在)	7.4億円	15.2億円(93年)
八坂3号炉	15年(88～現在)	6.0億円	15.1億円(00年)

である。人口24万人の清水地区からごみ処理施設が消えてしまってもよいのか？第二に少なくとも建替えは止めるべきであり、閉鎖することは15億円のバグフィルターが無駄になる。第三に「5年間で可燃ゴミを半減」し、その後の段階的閉鎖で周辺住民同意は得られないものだろうか？少なくとも清水地区全住民の願いとして、清水八坂地区住民との対話は可能ではないのか？

しかし、その可能性はより具体的なごみ減量数値目標と具体的なごみ減量計画である。そこに清水八坂の存続の可能性はあると信じたい。

「ごみ」などというものがあるのか？資源を燃やし続けてよいのだろうか？

家庭系ごみで重量比で一番は生ごみ、乾燥重量では紙が一番多い。体積ならプラスチックごみ。この3つがなくなれば、ごみは5%になるだろう。いずれも貴重な資源そのものである。

いずれも、それが「大量生産・大量消費」の結果として、ごみとして焼却され、埋立てられてきたのは、効率的・衛生的処理の「美名」によってなされてきた。「焼却とは資源の浪費の証拠を燃やしてしまうことであり、埋立てとはその証拠を隠蔽することである」(ポール・コネット博士)の言葉を忘れてはならない。

ゼロウェイスト(ごみゼロ)宣言へ

静岡市は「焼却ゼロ埋立ゼロを20年後に実現を宣言」する時期に来ている。

当面は5年で半減しよう。できないと言わず、まずごみ処理の出口を少しでも止めることから始められる。

より具体的目標として

- (1)清水八坂の存続と段階的閉鎖で清水地区での焼却ごみ量をゼロへ限りなく近づける
- (2)西ヶ谷清掃工場の建替えは中止して、新沼上清掃工場だけで処理できるごみ量へ近づけ、西ヶ谷清掃工場を閉鎖する。
- (3)具体的なごみ減量可能な回収システム・市民教育

プランを作成する

ことを挙げる事ができる。個々の具体的な「生ゴミ・紙・プラスチック」への対策は市民参加でいろんな方法があるのだろう。あくまで参考意見として私案を以下に並べる。

具体的な政策(例)プラスチック対策・紙対策・生ごみ対策をそれぞれ考える。

(1)生ゴミの堆肥化モデル地区から始まる集団回収に着手し、出来上がった堆肥出来上がった質によって、有料・無料で市民に配布する。

(2)紙の分別回収を進め、紙の焼却ゼロを数年以内に実現し、最終的には焼却ごみへの投入禁止を目指す。新聞・段ボール有価資源は民間収集を基本として、雑紙(その他紙類)へは古紙の単価の連動する行政関与の方法も模索する。

(3)焼却施設建設費用の浮いた分の一部を使い、それに代わる代替施設として、プラスチック容器包装のリサイクル梱包施設と生ごみ堆肥化施設の建設で市民の分別を促進する。

(4)プラスチック容器包装やペットボトルの回収梱包費用を企業負担=市民の直接負担求める法整備の必要性を市民と国に求める。(現容リ法では回収梱包費用は行政負担。プラスチック製品の分別回収の完全実施は行政・市民だけの努力では実現は不可能である)デポジット制導入やリターナブルビン(再利用ビン)の普及する根本的政策転換を同時に求める。

(5)平均家庭における週2回ごみ収集は無料とし、それを超える分の収集費用は1袋4~500円以上の有料回収とし、家庭で余ったごみ袋は行政が有料で買い取る。ごみ減量計画に基づき、無料回収分のごみ袋量は順次減らす。(ごみ減量した人が得するシステムの検討)

注：上記はあくまでほんの一例、ひとつのたたき台にしか過ぎない。政策の実現には市民参加の元で、政策決定をして実現を図ることが重要。ごみ減量の政策・アイデアは無限に広がる。

ごみ焼却場建替え時期こそ、ゴミ減量の大チャンス！3~400億円の税金投入か、未来のためのゴミゼロ宣言都市への再生か？静岡市は今、その岐路に立っている。それを決めるのは市民一人々々であるはずだ。